

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700587		
法人名	株式会社サンヨウ		
事業所名	グループホームこもれびの家 南ユニット		
所在地	岡山県浅口郡里庄町大字新庄2790-7		
自己評価作成日	平成29年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700587-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成30年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズムで過ごすことを大切にしているが、食事・おやつは皆とホールで摂るよう働きかけ入居者が孤立した生活にならないよう支援している。 ・ユニット会議は職員全員が極力出席し、業務の見直しや入居者のケアについて話し合い統一ケアを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>111歳(M40)を筆頭に99歳(T8)、98歳(T9)、97歳(T10)が2人、94歳(T13)と6人の明治・大正生まれの長老が健在で生活しているのに驚いた。定員の3分の1に当たるが、他の利用者と共に一人ひとりが温かい介助を受けて楽しいホームでの生活をしてきた。以前は利用者は色々な活動をしながら元気に姿を見せていたが、今回は利用者がみんな楽しく活動している姿は見られなかった。H28、29年度の目標達成計画でも「利用者の活動が無い」と自覚しているように、リビングルームで集団や個々でレクリエーションや作品作り等している場面を見ることが出来なかった。人材不足も影響しているのだろうと思った。大量の手拭い風の布を一枚ずつ両ユニットの利用者全員で折りたたんでいる場面があったが、全員で作業している時は楽しそうに笑顔が漂っていた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各部署に理念を掲げ、職員間で確認・共有できる環境づくりに努め実践につなげている。	「人と人とのつながり」「地域の中で自分らしく暮らせるように」を理念として掲げている。この意義を職員が実行する諸業務をマニュアルに具体的に表現しているため理解と認識がしやすいと思う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや学生の職場体験の受け入れ、事業所全体で祭り等を催すなど地域との交流の機会を設けている。	里庄町民と共に介護福祉を共有していく事は設立以来変わらず運営している。笠岡市、浅口市、里庄町から利用者を迎えているが、最近では111歳を筆頭に長老の人が多くなっているため、皆が安心して暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループ季刊誌を年3回発行、ご家族や地域の方へ配布している。秋祭りなどの行事参加を促し、入居者との関わりの中で認知症への理解や支援を深めていけるよう努めている。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動と運営推進会議を兼ねることで、サービスの報告検討のみならず、入居者の表情や様子を見て頂くことができている。	クリスマス会や節分などの行事と運営推進会議を合わせて開催するようになり、家族が多く参加できるようになった。利用者・家族・職員とのコミュニケーションの密度が高まり、運営にも役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事と運営推進会議での交流しかできていないので、更新手続きの時などに、現状報告や情報交換をしていきたい。	設立して長年月を経ているので、必要な事以外は町との接触が少なくなっているように思う。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういったことが身体拘束になるかについて話し合う場を設け、身体拘束の禁止について職員一人一人が理解していけるよう努め注意し合っている。現状、身体拘束は行っておらず施錠は夜間のみとしている。	身体拘束や虐待などの行為は定義上からすると皆無であろうと思う。しかし、介護という生活上から生ずる突発的な危険性があると思うので、職員と利用者個々の間の信頼関係を日頃から構築しておくことが大切だと思う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は内部研修や外部研修に参加することで、虐待防止についての学び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を必要とする対象者はいないが、制度を学ぶ機会があればと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の要望を聞き、説明や質疑応答を行い、医療連携等も家族と話し合い同意を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に、家族また関係者の意見をくみ取り反映できるように努力している。	運営推進会議に家族の出席が増えてきた。1ヶ月に1回は来訪してくれる家族がいるようで、家族との面談も出来ているので、意見交換をしっかりともらいたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニット会議、リーダー会議を行い、意見交換・検討をしながら業務やケアに活かしている。職員が上司に意見・提案しやすいよう「わくわくBOX」を設置し、検討し実行できるよう努めている。	「わくわくBOXは」今月で廃止したそうだ。職員の意見は申し送りやユニット会議で職員の意見交換がしっかりできているので投函の必要性がなくなったそうだ。利用者の担当職員の役割は大きいと思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与月には考課表を基に自己評価、主任・管理者評価を行っている。休憩場所にはテレビや雑誌などを置き、気分転換を図り、他部署職員との交流の場ともなっている。また、年1回は親睦会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は全職員が参加できるよう昼の部・夜の部と分割し、外部研修はなるべく多数の職員が参加できるよう順番に参加している。研修後は各自研修報告書を制作し、全職員に回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・主任は、他事業者との交流会に参加し、情報交換を行うなどネットワークづくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前訪問を行い本人の心身の状況の把握や、家族、関係職員から情報収集をし、本人が安心して生活できるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安が軽減できるよう家族の思いを受け止めた上で、当事業所では対応できることを検討し伝え話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人・家族の思いを聞きケアプランに組み込み、要望に沿ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見守り支援しながら、感謝の気持ちを伝え、お互い協力し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月/1回の家族通信や事業所新聞などで、入居者の状況や健康状態を伝えたり、施設行事には参加を促している。また、可能な場合は受診の付き添いなど協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には、なかなか行くことが出来なくなってきている。	利用者の友人が時々訪問してくれているようだ。利用者の高齢化や職員の余裕がなくなっているため外出は難しくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者、一人ひとりに合った役割を持ってもらうことにより、利用者同士が声を掛け合い、助け合うことで協力し過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所等へ移る場合の情報提供は行っている。また、退居後は可能な限り家族へ現状の状態を聞いたり、移った事業所へ訪問するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者一人ひとりとコミュニケーションを取り、何気ない言葉や態度から本人の思いなどをくみ取っている。	利用者の生活行動の中から職員達が気付く、聞き取る、見抜く等の感覚が必要と思うが、個人的や全体的なレクリエーション等の利用者の行動が少ないのが不安である。入浴の時はよく話せるようでコミュニケーションをしっかりとっていると聞いた。	利用者と職員の一対一のコミュニケーション(カンバセーションではない)の機会をつくり、一日に10分間でも向い合う習慣をつくってはどうか？
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にバックグラウンド用紙の記入をお願いし、生活歴等の情報を得ている。また、利用していた他施設などから当事業所利用にあたるまでの情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態や習慣に留意し、本人の生活リズムに合わせるよう努め、また、変化があれば、職員同士で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月/1回のユニット会議で、利用者個々の気づき変化を話し合い、ケアの統一性を図っている。また、本人や家族には、日頃の関わりの時や面会時の際に思い意向を聞き、介護計画の作成の参考にしている。	基本情報、焦点情報、カンファレンス、生活援助計画のプロセスがマニュアル化されていて、それに基づいて基本的には6ヶ月毎に生活見直しをしている。主に職員会議で意見交換するマネジメントになっている。	ケアマネージャーの資格取得者が不在になっており、近隣事業所の人兼務しているので問題はないが、このホーム独自の資格者が配置できるようにしてもらいたい。(試験に挑戦しているそうだけれど)
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りを基として変化に気づき、個々の記録に記入し、職員間で情報の共有をしながら、カンファレンスで見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて可能な限り通院や入退院の送迎などの支援は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員会の方々と2ヶ月/1回運営推進会議で意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約前に当事業所の意向を説明し、本人、家族が希望するかかりつけ医を決め、主治医となる先生に医療状況などの情報を伝えている。また、利用者の状態の変化は随時報告し、指示を仰いでいる。	地元の医師の協力医が居て、殆どどの利用者はその先生を主治医となっている。訪問看護師と契約しており、毎週訪問して利用者の状態を確認してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身や状態の変化は、「訪問看護師連絡用ノート」を使い、週/1回の訪問時にノート確認、口頭での報告にて指示を仰いでいる。また、緊急を要する際は、電話で報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供をしている。入院中、職員での面会や家族、病院関係者から情報収集しアドバイスを得て、退院後の支援計画を立てている。また、関係づくりとして、交流会に参加し情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて家族に説明を行っている。本人、家族の意向を踏まえた上で、医師、訪看と職員が連携を図り、家族と本人が安心して過ごせるように、職員一丸となって取り組んでいる。	高齢者が増えており、一人ひとりの日々のケアが大切になっていると思う。中には看取り状態になる人もいるが、又、回復して普通の生活が送れるというケースもあるようだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際時に備えて迅速に対応できるよう、救命救急の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年/2回避難訓練を行い、1回は夜間想定での訓練を行うよう実践している。今後の課題として、様々な災害対策の訓練を地域の協力を得、実践できるよう取り組む。	ホームの周辺の空地が広がっているのも、どこからでも外へ出られ、避難しやすい環境は心強いと思う。ユニット間も回廊になっており、職員の連携も取りやすいし、会社関係者も近くに住んでいるので安心だと思う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が不安になるような否定的な声掛けをせず、安心してもらえるような対応に努めている。援助が必要な時も、本人の気持ちを大切にしながら対応にあたり、プライドを傷つけないよう配慮している。	利用者の尊厳を大切にしていることは当然のことである。安心の中でも羞恥心を抱かせないよう日頃から気を付ける必要あり、これも利用者と職員の個々の間での信頼関係を持ち続ける事も必要と考える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声掛けを行っている。意思表示の困難な入居者に対しては、表情や反応を見逃さないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞き、対応が出来る事であれば、希望に沿った支援を行うように努めている。極力、利用者一人ひとりのペースに合った生活リズムで日々を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月/1回の訪問美容師に、本人の意思を伝えたり、その人らしい髪型を頼んでいる。整髪、整容には注意を払っている。耳垢、爪切りは入浴後に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫した野菜を使い季節を感じてもらえるようにしている。食事の準備・片付けは、出来る事を役割として行ってもらっている。	高齢者で食事介助の人には、少し早い目に食事をして、後から自立した利用者と職員と一緒に食事をしているのが今回の食事風景だった。食前のテーブル掃除と食後の片付けは利用者が手伝い、楽しい時間を過ごしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が食べきれぬ量や、好んで飲水してくれる物を提供している。また、食事摂取量にムラがある利用者には、その日の食事量を全職員が把握できるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じた口腔ケアを毎食後行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯は週/2回、液を使用しての洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意ある介助必要とする利用者からの訴えに迅速に対応し、本人の残存機能を生かした介助を行っている。訴えのない利用者には、定期的な声掛けしトイレでの排泄を促している。	昼間は全員がトイレに行って排泄していた。夜間は安全上ポータブルトイレを5人が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトや、おやつ時には牛乳などの提供で便秘予防に努めている。また、排便チェック表にて排便リズムの把握をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね入浴日を決めてはいるが、本人に入浴の有無を尋ね希望に合わせて支援している。	入浴は週2回を原則として、1日2～3人が入浴するので、1人はゆったりと時間をかけて入浴できる。入浴の時は職員とゆっくりとお話ができるそうだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な運動を行い、一人ひとりの生活リズムに合わせれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に前回と変更になってないかの確認を行い、処方一覧表を毎回ファイルに綴じている。また、服薬困難な薬や状態に変化があれば医師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに役割を持ってもらえるよう取り組んでいる。その際、感謝の気持ちを伝えている。また、行事で他事業所の利用者と交流が持てるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい日は外庭の散歩に誘っている。当施設の協力医院以外の定期受診は、家族対応での付き添いの協力を得ている。その際、買い物や外出に出かけられている。	季節の良い時は広い庭にテーブルが置かれており、そこで歌を歌ってレクリエーションをしてゆっくりと過ごせる。又、ホームを一周する散歩コースが整備されており、機能訓練を兼ねて散歩できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な利用者が多く、事業所で管理をしている。必要物に応じて家族に相談し了承を得てから使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族等への電話の訴えがあった際は、職員が掛け本人と変わったり、伝言を代わりに伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、利用者の通行の妨げにならないよう家具等を配置している。また、トイレやお風呂、居室には、その場所が把握できるように表示している不快な気持ちにならないよう環境整備に努めている。	リビングルームを中心に2つのユニットが回遊式になっており、利用者は職員と一緒に機能訓練を兼ねてホームの中で回遊している。又、利用者同士がユニットを行き来して交流する事もできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、おやつ以外の時間以外は、各々の自由な時間を過ごしている。自席は決めずに、本人がその時に落ち着く席に座っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真を飾ったり、利用者の馴染みの物を置き落着ける環境を提供している。	居室は安全第一に考え、自分の生活を楽しむよう配慮されている。写真や自分の馴染みの物を貼って思い出や家族を大切にしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止への取り組みが過剰にならないよう、個々の必要性によって福祉用具の検討し、利用者の行動抑制にならないようケアしている。また、状態が変わった際は、検討会議を行い、自立支援につなげている。		